



■大雪山縦走

- 日 程：8月6日(月)～9日(木)
- 参 加 者：L上田 SL佐々木 島谷 藤原(千) 村上

● 行動記録：

- (6日) 神戸空港 8:25 発－新千歳空港(10:15 着)10:45 発－J R札幌駅(11:22 着)12:00 発－J R旭川駅(13:23 着)14:40 発－層雲峡グランドホテル(16:00 着)
- (7日) 層雲峡グランドホテル5:25 発～ロープウェイリフト乗場6:00 発－黒岳7合目(6:35 着)7:00 発～黒岳(8:25 着)8:40 発～黒岳石室(9:00 着)9:10 発～北鎮岳肩(10:30 着)10:40 発～間宮岳分岐(11:55 着)12:15 発～旭岳(13:45 着)14:10 発～姿見の池(15:40 着)16:30 発～旭岳万世閣ホテルベアモンテ(17:00 着)
- (8日) 旭岳万世閣ホテルベアモンテ 9:00 発～旭岳ビジターセンター見学～旭岳温泉 9:30 発－J R旭川駅(11:05 着)11:35 発－旭山動物園(12:08 着)14:30 発－J R旭川発－(15:05 着)16:00 発－J R札幌駅(17:25 着)－リッチモンドホテル札幌(17:55 着)
- (9日) リッチモンドホテル札幌 8:45 発～大通公園～旧北海道庁～時計台～北海道大学～リッチモンドホテル札幌～J R札幌駅(13:00 着)13:20 発－新千歳空港(13:57 着)18:30 発－神戸空港(20:25 着)

♣♣感謝！黒岳・旭岳

島谷

台風13号が自転車並みの速さで本州東沖を北上する中、神戸空港発のジェット機は日本海周りで北海道へ向かいました。札幌駅から旭川駅への特急列車内で思い思いの駅弁を食べ、遠路山行の気分が盛り上がります。層雲峡温泉では、この時期に毎晩花火が上がり、夜空に翌日の晴天を期待しました。

7日、6時始発のロープウェイリフト乗場は観光客と登山者でにぎわっており、一気に黒岳7合目に着きました。エゾシマリスがかわいく寄ってきますが、ザックのファスナーの穴から内へ入ろうとするぐらい人間に慣れてしまっているようです。黒岳頂上までは、急な斜面に段差の高い大きな岩ばかりで息が切れませんでした。黒岳頂上は晴れ渡り360度の景色に圧倒されました。ここに登ったのは3回目ですが、ガスがかからず寒くなくこんなに広々と見渡せて笑みがこぼれます。以前の私にはここから先の1歩は踏み出せない領域でした。今皆さんと一緒に先に進める、こんな自分を34年前は想像もできませんでした。「きっと今日の縦走を成功さ

せるぞ」と願い、そして誓った1歩でした。黒岳石室(いしむろ)のトイレは、使用後に横の自転車を自分でこいで処理する構造で初めての体験でした。噴火跡のお鉢平は雪渓と硫黄と緑に覆われた部分があり、大昔に大きな噴火があったことを思い起こさせます。遠くの噴煙を上げる十勝岳、ギザギザのトムラウシを教えてもらいました。あそこへは行くことはないだろうけれど、夢だけは膨らみます。トムラウシに行くという大学生達が重さ30キロを超えるザックを持ち、女子でも18キロを背負っていました。彼らの若さと逞しさを前に、私達も気分新たに旭岳へ向かいました。

本山行の目玉はここです。旭岳手前で今から越える中腹の雪渓と急斜面を見上げていると、なんと、Mさんが旭岳斜面を横方向に激走する熊を発見したのです。その速さ、滑らない的確な足さばきを5人は呆気にとられて眺めました。後にビジターセンターの方に聞くと、林のないその斜面での熊出没の報告は珍しいそうです。熊の方が先に人間に気づき、必死の激走だったのでし

よう。

旭岳の東斜面ではわずかながら雪渓を越え、また、火山岩が砕けて砂のようになった小石と大き目のゴロゴロ石が混在し、とても滑りやすくこわかったです。旭岳頂上からは、黒岳はじめ本日歩いてきた道と雄大な山々が見渡せました。西の姿見の池への下りは、疲れ切った脚には過酷で歩きにくく、ほうほうの体で池にたどり着きリーダーとハイタッチ

し「よう頑張った」と言ってもらいました。ロープウェイ駅で旭岳を眺めながら5人でメロンソフトクリームを食べ「よう歩いた」「えらかった」「こわかった」「花かわいかった」「熊すごかった」と口々に話し、最高の天気と景色に恵まれたことに感謝しつつ、安堵と満足に包まれて山をおりました。

♣♣大雪山を下山後

村上

8日、縦走が終わった安堵感で朝もゆっくりと9時出発です。旭岳ビジターセンターに立ち寄りバス停に向かいます。車窓からは白樺の森が爽やかです。旭川空港経由で旭川駅に到着、ロッカーにリュックを入れて身軽になりバスで旭山動物園へ向かいます。暑さの中、家族連れが多かったけれど大人にも充分楽しめる動物園でした。ただ小高い丘を上がり下りして、縦走の後の体には応えました。旭川駅に戻ってから電車の時間まで、駅の北を流れる忠別川の河原に広がる「あさひかわ北彩都ガーデン」を散策。札幌までの車窓は広々とした稲作地帯です。

ホテルに荷物を置いて街へ、夕食はジンギスカンの店「北えびす」に行き、美味しいジンギスカンでお疲れ様乾杯をしました。

9日、荷物をホテルに預け、大通りから赤れんがの美しい北海道庁旧本庁舎を見学、北海道の開拓の歴史を見ることが出来ました。次に札幌市時計台へ向かいました。今年は工事中で中には入れませんでしたが時を告げる鐘の音を耳にする事が出来ました。北海道大学では広々とした構内を散策、クラークの胸像を見て、構内のかなり奥まった所にある映像でもお馴染みのポプラ並木を闊歩しました。

お昼はマルシェで、学内で作られた野菜やチーズを使ったドリアを食べました。ホテルに戻りリュックを背に札幌駅から電車で新千歳空港へ向かいました。





■ 網引湿原と小野アルプス

- 日 程：8月10日(金)
- 参加者：L 垣内 SL 砂川(延) 内海 小田(昌) 笹木 島本 田中(美) 徳本 舛賀 森本

- 行動記録：網引湿原(8:20 着)9:30 発～岩倉登山口(10:00 着)10:15 発～展望台(10:35 着)10:45 発～惣山(10:50 着)～紅山(11:25 着)11:40 発～岩倉登山口(12:00 着)

♣♣ 網引湿原と小野アルプスに参加して

徳本



台風の接近で中止になっていた網引湿原と小野アルプスに参加しました。網引湿原では、網引湿原保存会の副会長さんに網引湿原に生存する希少動植物について説明していただきました。

網引湿原は、兵庫県最大の湿原だそうです。驚きです。湿原を散策していると真っ白なサギソウが所々に咲いていました。初めて近くで見て感動でした。湿原の3種の神器と云われているハッチョウトンボのメスも見つけ

ました。6月に来るといろいろな草花に出会えるそうです。また、6月に来ようと思いました。加西市にこのような貴重な湿原があることに驚きました。

次は、小野アルプスに登るため登山口まで車で行きました。準備運動が終わると出発です。

初めての山なので「どんな山かな。登れるかな。」と不安でした。上りは、暑くて汗だくになりながら登って行きました。展望台で休憩しました。しばらく登っていくと惣山の頂上に着きました。今度は紅山です。「岩を登るのがたいへんよ。」と友達から聞いていました。「どんな岩を登るのかな。」と思いながら下って行きました。すると紅山の岩の山が見えてきました。とても急な岩山です。驚きました。心の中で「こんな急な岩山登れるのかな。」「大丈夫かな。」と思いました。とても急な岩山だったので四つん這いになって登って行きました。必死で登って行きました。上を見るともう少しです。また、四つん這いになってクモになったように登って行きました。やっと紅山の頂上に着きました。

田中さんから串に刺した美味しいキュウリをいただきホットしました。少し休んで下山しました。下山するとリーダーさんから西瓜をいただきました。この西瓜のおいしかったことパクパク食べてしまいました。

湿原に驚き、急な岩山に驚き、思わぬスイカに驚き、午前中という短い時間でしたが、楽しい山行でした。リーダーさん、同行の方々、お世話になり有難うございました。



■六甲・地獄谷から(沢通しで歩く)

- 日 程：8月19日(日)
- 参加者：L 砂川(延) SL 和田 乙坂 木下 黒本 笹木 澤田(律) 安田

- 行動記録：阪急芦屋川駅 9:02 発～高座の滝(9:35 着)～休憩・ストレッチ(9:38 着)9:50 発～ピラーロック(12:40 着・昼休憩)13:27 発～風吹岩・案内板(13:33 着)～休憩(14:03 着)14:15 発～高座の滝(14:25 着)～阪急芦屋川駅(15:00 着)

♣♣「六甲・地獄谷」に参加して

安田

実に楽しい山行でした。暑くない、しんどくない、仕上げは一杯飲んで解散！

私達、セカンドステップのメンバーは白馬行きが台風の為、中止になりましたし、その以前の大台ヶ原の終了山行も悪天候で、ロープとシュリングを使ったトレーニングが出来ていませんでした。その代替として今回、六甲、地獄谷で行う事になりました。

参加者は14人の予定が、前日に緊急キャンセルなどもあり、結局8人での少グループになりました。

阪急芦屋川駅を出発し、高座の滝まで一気に進み、ロックガーデンの入り口を左に降りると地獄谷です。自分は初めて入るコースなのでとてもワクワクしました。

まずはストレッチを済ませ、水が流れている所をよけながら岩場を渡って行きます。空は晴天、でも歩いているここは木々が太陽を遮っているため、温度が低いようです。サラサラと水の音も気持ち良く、久しぶりに「六甲山にも良い所があるんだ」と感じました。今までですと苦しい、暑い、辛い、しんどい、のイメージしか出てきません。岩場を渡ったり、水が流れている横をよじ登ったりと、中々スリル満点です。以外と多くの人が登って来られていました。

ロープを使った自己確保も座学ではなく、実践なのでとても楽しく行うことができました。

「成る程、こうゆう時にロープを使うか」など、納得のいく現場でした。

休憩をはさみ、ピラーロックまで登り、休憩と昼食を済ませました。途中、岩の間を道迷いしまして、岩山をぐるっと回って元の位置？リーダーのようにベテランでも道迷いをするんだと変な所で感心する自分でした。これもまた面白く感じました。

昼食後、下りは高座谷コースです。ここも沢を横目に下っていくのですが、地獄谷と違って、とても歩きやすいコースでした。途中、「うりぼう」が、一匹で散歩していました。気が付いた人達は写真を撮っていましたが、近くに寄っても怖がる様子もなく、可愛かったです。あれだけ嫌われる野獣ですが、子供っていうのは可愛いですね。

皆様、お疲れ様でした！





■①コース アルプスの展望とお花畑を楽しむ (ゆっくりリズム) 三伏峠から烏帽子岳・小河内岳へ

- 日 程：8月25日(土)～27日(月)
- 参加者：L 砂川(延) SL 藤原(千) 笹木 中村 三木(悦) 安田 矢根 吉村
- 行動記録：
 - (25日) 山陽電車高砂駅 6:00 発－松川インター(12:00 着)－大鹿村役場(12:30 着) 12:40 発－鳥倉林道ゲート(13:30 着) 13:55 発－鳥倉登山口(14:05 着) 14:10 発～豊口山間コル(15:20 着) 15:30 発～豊口山分岐(17:00 着)～三伏峠小屋(17:30 着)
 - (26日) 三伏峠小屋 5:10 発～烏帽子岳(6:25 着)～前小河内岳(7:45 着)～烏帽子岳(8:55 着)～三伏峠小屋(10:00 着) 11:15 発～鳥倉登山口(14:00 着) 14:25 発－鳥倉林道ゲート(14:40 着) 15:35 発－山塩館(16:30 着)
 - (27日) 山塩館 9:00 発－山陽電車高砂駅(17:30 着)

♣♣「アルプスの展望とお花畑を楽しむ」に参加して

安田

夏山集中山行に参加するのは今年で2回目ですが、この度も本当にいい所に連れて行って下さったと感謝しています。

今年は台風に悩まされた年でした。楽しみにしていたセカンドステップの山行、白馬岳は中止になりましたし、今回の夏山集中山行4コース中、3コースは全て変更です。全て、私達と同じ①コースに行くことになったのです。変更された方は残念だったと思います。

私達の班だけは予定通りだったので、心理的に全く不安はありませんでした。予定では、車が入れる鳥倉ゲートまでで、そこから歩く予定でしたが、バスが利用できるとのことで、大変助かりました。約50分かかるところをバスで、8分で到着。ここでタイムが大幅に短縮されたのですが、それでも山小屋到着は予定通りという所でした。登山口から順調に登って行くのですが、急登で実にきつかったです。リーダーはゆっくり登って下さったので、個人的には無理なくついて行けたと思っています。他の人もしんどいと言いながらもチーム全員、無事、山小屋到着でした。雨に降られるかなと不安はありましたが、何とか持ってくれたのでラッキーでした。

着いた山小屋ですが、入ったとたん、目に入ったのは「7時30分消灯」。え〜？到着したのが5時40分頃。これから、まだ他の2チームが上がって来るのに時間がありません。普通の山小屋は9時位まで、電気を点けていると思うのですが…。私達も直ぐに食事をして部屋に入りました。本当に慌てましたが、後のチームがとても遅いので皆で心配しました。無事全員が揃った時は本当に安心しました。

次の朝は5時出発です。快晴です。星が本当に綺麗に見えました。朝焼けの道を尾根づたいに登って行きます。空気が澄んで高い山々を眺めながら進んで行くと綺麗な富士山が現れてきました。素晴らしい景色です。自分は全く初めて見る景色で、なんとも感動でした。雲が綺麗に無いので遠い山々がハッキリ見えます。これが登山の醍醐味と言うのでしょうか、とても気持ちの良い気分でした。自分たちの力で行ける所まで行って帰ると言うリーダーの言葉通り、予定していた小河内岳は諦めて、手前の前小河内岳から引き返しました。断崖絶壁のギリギリを横切ったり、風の強い所はフードを被って登ったりと、大変面白かったです。そして高山植物が沢山咲いていました。名前が判らないので書きませんが、この花々も目を楽しませてくれました。

下山はさすがに足が疲れていて膝痛がしました。私達はこんな所を登って来たのかと感心したり、呆れたり。中々登山口に着きません、足の疲れは殆んどピークでした。

やっと山を下った後は、山塩館へ直行です。温泉とビールです。やれやれ…

色々準備をして下さった森本さん、有難うございました。そして、会員全員の目配りや心配をして下さった会長、有難うございました。皆様お疲れ様でした。



■②コース 小河内岳

- 日 程：8月25日(土)～27日(月)
- 参加者：L森本 SL平井 土屋 西川 橋本(健) 廣岡
- 行動記録：

(25日) 山陽高砂6:00 発ーJR宝殿駅(6:15着)6:20 発ーJR加古川駅(6:30着)6:35 発ー大鹿村役場(12:40着)12:45 発ー鳥倉ゲート(13:10着)13:55 発ー鳥倉登山口(14:05着)14:15 発ー三伏峠小屋(17:10着)

(26日) 三伏峠小屋 5:05 発ー鳥帽子岳(6:15着)6:45 発ー三伏峠小屋(7:10着)7:45 発ー鳥倉登山口(11:20着)11:45 発ー鳥倉ゲート(12:30着)13:00 発ー山塩館(14:00着)

1日目曇り時々雨

毎年、この時期家族旅行と重なり行けなかったが今年初めて参加出来ることになった。

25日朝6時30分頃総員27名一緒に大型バスで加古川駅北を出発した。車中の連絡で、台風の為ロープウェイ駅までのバスが不通で、我々2班は木曾駒ヶ岳コースから他の班と同じ三伏峠から小河内岳のコースに変更になった。車内では森本さんが調整のため大わらわ。私は木曾駒ヶ岳コースしか下調べしていなかったの少し不安ではあったが、どちらの山域もはじめてというのと全員一緒という安心感もあった。



バスは途中休憩をはさみながら12時頃中央道松川インターチェンジを降り大鹿村の役場でマイクロバスとジャンボタクシーに乗り換え鳥倉ゲートへ。ここからは伊那バス2台に分乗し鳥倉登山口到着。誰かが“この道登るんですか？”と、声を上げたほどの急坂である。ストレッチの後14時12分頃スタート。うす暗い樹林の中の道で見通しがなく、気の晴れない状態が続く。

気温は高くないが湿度が高くペースが徐々に落ち、気が付くと前のパーティは見えなくなり

我々6人だけが黙々と歩いていた。道標1合毎の距離が長く感じられたが、8合目の表示に少し元気になり9合目を過ぎるとヘッドランプを点灯し19時10分にやっと三伏峠小屋に到着、仲間の迎えもそこそこに19時30分消灯に間に合うよう夕食を済ませ早々2階に上がり、布団を敷いてもぐりこんだが眠れず、ようやくウトウトしたと思えば午前4時に照明が一斉に点灯し目が覚めてしまった。

2日目晴天

顔を洗うため表に出ると空には満天の星、晴天の予感がする。5時の出発時には東の雲がピンクとオレンジ色に染まりセルリアンブルーの空が塩見岳を影絵のように浮かび上がらせている。それを眺めながら5時に三伏峠小屋を出発する。出発して間もなくお花畑に出る。時期的に遅いのか花が少なくても色も褪せていたが、松虫草(教えてもらったので名前がわかった)が、紫がかかったブルーの花びらを風に震わせていた。幹の曲がったダテカンバやナナカマドの林はもう秋の風情。サブザックを持ってこなかったことを後悔しつつ登り、6時30分鳥帽子岳頂上へやっと到着。そこからの眺めは目前にドーム型の独特な山容の塩見岳が聳えその奥に白峰三山、その左奥に仙丈ヶ岳そして一番奥には甲斐駒ヶ岳の秀麗な姿が望まれた。西の方には中央アルプスの山並みが連なり、その中ほどに宝剣岳、その下部にはロープウェイの千畳敷駅が小さいが確認できる。南には悪沢岳をはじめ荒川三山、そして東には小河内岳、その奥にブルーグレーの山容が左右に裾野を大きく広げ雲海に浮かんでいた。私が山座同定できるのはこの富士山くらいで他の山は一人で登ってこられたご婦人に教えていただきました。本当にありがとうございました。

景色を堪能した後、小河内岳行、南小河内岳行、小屋に引き返す組と3パーティに分かれて行動した。我々のパーティは小屋に戻り女性2人と合流し8時頃出発した。いつもそうだが帰り道は登りより短く感じたが、丸太で作った橋の状態が良くないので苦戦した。

それでも途中、山水を飲んだり晴天の中央アルプスを眺めながら11時25分に鳥倉登山口に着く。それから50分かけてゲートま

で歩き、ジャンボタクシーが来るまでの間H氏持参の冷えた焼酎を頂いた。疲れた体に染み渡る。

おかげで山塩館までのバスは爆睡。夜の宴会ではヤマメの塩焼きや山菜料理をおいしく頂き、歓談の後20時過ぎにはテレビを見ながら熟睡。1日が無事終了した。



【小河内岳から富士山】

3日目晴天

朝食後山塩館の主人から山塩の製造方法を現場で説明していただく。塩分4%の温泉水を窯に入れ薪の火で濃縮し塩を作るのだが、単純で非常に時間のかかる方法だ。それだけ昔は塩が貴重であったという事であろう。旅館前で記念写真を撮り帰途に就く。帰る途中、道の駅に立ち寄り土産の品を買い求める。JAの店ではリンゴ、ナシ、ブドウが安いので皆さん大量に買い、満足感一杯で旅を締めくくった。

今回は、台風接近による悪天候のため計画が二転三転し山小屋やタクシーのキャンセル、予約変更で大変であった。

幹事の森本さん本当にお疲れ様でした。また砂川会長はじめ各リーダーの方々、同行の皆様有難うございました。



◆③南アルプス／烏帽子岳

- 日 程：8月25日(土)～27日(月)
- 参加者：L上田 SL澤田(律) 高島 舛賀
- 行動記録：
 - (25日) JR宝殿駅北6:20発―烏倉林道登山口(13:45着)14:15発～三伏峠小屋(18:15着)
 - (26日) (上田、舛賀)三伏峠小屋5:05発～烏帽子岳手前で引返し6:00～三伏峠小屋(6:35着)
～7:00発～5合目8:55～登山口(10:40着)～山塩館(14:30着)

◆◆コース変更、南アルプス烏帽子岳へ

上田

台風20号にずいぶん心配させられたが、大きな被害もなく通過したので、計画通りの山行が出来るものと思って出発した。途中雨が降るなど気持ちの良い天気ではなかったのだが、駒ヶ岳ロープウェイの運休が続いていることがわかり、やむなくコースを変更する。

結局、25日は27名全員が烏倉林道登山口から三伏峠小屋をめざすことになった。

14時15分登山口を出発、まだ青々としたカラマツの林を登る。4コース、1コース、3コース、2コースの順に登るが、30分ほど登ると3・2コースの足がのびない。傾斜もあり、腕程の木の枝を組み合わせたような階段や橋など歩きにくいところが何ヶ所もある。高島さんは1コースと共に先に行き、3人はゆっくりと登り18時15分、薄暗くなった三伏峠小屋に着いた。

26日、登高意欲のわくいい天気だ。5時5分三伏峠小屋出発。しばらく行くと大きな花畑、もう夏の終わりだから花の種類は少ないがタカネマツムシソウがきれいだ。花畑をぬけて尾根に出ると烏帽子、小河内岳からつづく南アルプスの大展望が広がる。昨日はほとんどが樹林の中だから山に入って初めての歓声があがる展望だ。私と舛賀さんはこの後すぐに引き返したが、



烏帽子岳からはきれいな富士山が見えたとのこと、これはもったいないことをした。澤田さんは2コースと共に、高島さんは1コースと共に行動した。数の少ないパーティがバラバラになったが、同じ会内のことだから許されるだろう。

7時、三伏峠小屋を出発する。事故なく下山することが唯一の目標、この時間からならどんなに時間がかかっても大丈夫なはず、そう思ってゆっくりと下る。不安だった木の枝を組んだ橋や階段も無事に通過した。3合目あたりからは道もゆるやかになる。「からまつ林を出でて、からまつ林に入りぬ、からまつはさびしかりけり。

たびゆくはさびしかりけり。」これって白秋だったけ。柄にもないことを思いながら、10時40分に登山口に着いた。

いつもいつもいい条件に恵まれるわけではない。コースの変更など満足のいく山行ではなかったが、久しぶりにタカネマツムシソウに出会えたこと、たいていは急ぎ足で通り過ぎるカラマツの林を森林浴気分ですっかり歩けたこと、そして全員無事に山塩館に会えたこと、いい山行だった。

◆④南アルプス／小河内岳

- 日 程：8月25日(土)～27日(月)
- 参加者：L尾内 CL和田 SL須増 大谷 河合 木村 田羅間 村上 松下
- 行動記録：
 - (25日) 大鹿村発12:40～鳥倉林道ゲート(13:30着)13:51発～鳥倉登山口(14:05着)14:10発～分岐(14:35着)14:45発～6/10地点(16:05着)16:15発～三伏峠小屋 17:35着
 - (26日) 三伏峠小屋4:50発～鳥帽子岳(5:45着)5:55発～前小河内岳7:00発～小河内岳避難小屋(7:45着)8:10発～小河内岳(8:15着)8:25発～前小河内岳 9:10発～鳥帽子岳 10:10発～三伏峠小屋(11:00着)11:30発～ほとけの清水(12:15着)12:25発～5/10地点(12:45着)12:50発～鳥倉登山口(14:05着)14:25発～鳥倉林道ゲート(14:35着)15:35発～山塩館(16:20着)

♣♣鳥倉から樹林帯の中を三伏峠小屋に向かって

田羅間

大鹿村役場でマイクロバスに乗り換え鳥倉林道越路ゲートへ。そこからは路線バスでないと入ることが出来ないとのことでバスを待つ。その間にストレッチをする。歩けば40～50分の林道をバスだと約15分で着く。

小屋に向け出発。いきなりの急登、湿度が高く風の通らない林の中を、汗を滴らせあえぎつつ登る。しかも時おりパラパラと雨が降ってくる。途中何度か休憩をとり、1/10、2/10、・・・9/10と標識を数えつつ歩く。9/10からの長かったこと。フラフラになりつつやっとのことで三伏峠小屋に着く。カッパを着るほどの雨に降られてないのに汗で中までグッショリ。疲れた!!

♣♣鳥帽子岳から稜線を小河内岳へ(8/26)

村上

薄暗い早朝5時前に三伏峠小屋(2580メートル)を出発、朝日が昇り今日は晴天です。

8月も終盤になりお花畑にはマツムシソウが咲いていました。突然のガレの縁に背筋がぞつとしましたが、登山道には色鮮やかな赤い実を付けたナナカマドやトリカブトの青紫の花が咲き心も和みます。地元の中学生の集団登山コースにもなっている鳥帽子岳(2726メートル)の山頂からは、今回行くはずだった塩見岳(3052メートル)が綺麗に見えます。台風の後なので空気が澄み渡って展望が素晴らしい。

北アルプスや中央アルプス、遠く富士山も裾野まで見渡せます。稜線を小河内岳に向かって行くと西側は崩壊地で稜線に出ると強い風に飛ばされそうです。ハイマツ帯を抜けると、県営小河内岳避難小屋でゆっくり朝食です。小河内岳(2802メートル)頂上からはいつまでも眺めていたい富士の絶景がありました。荒川三山も目の前、見渡す限り360度山又山です。帰り道、前小河岳(2784メートル)のあたりハイマツ帯では風に舞うホシガラスを見る事が出来ました。足を踏外せば何処まで落ちるかわからない幾つものガレの縁を注意深く歩き、ダケカンバの美しい森を



抜け烏帽子岳から三伏峠小屋に戻り昼食。1グループのメンバーと合流。2、3グループは早々に下山したとの事。昨日登った道を10分割された標識を見つけながら下りました。細い丸太の梯子は要注意でしたが、鬱蒼としたカラマツ帯やシダの美しさに見とれながら烏倉登山口に14時05分下山、越路ゲートまでの最終バスにも乗れて越路ゲートで山塩館のバス待ちの間ゆっくりとコーヒータイムをしました。16時20分に山塩館到着後は、深い山の中であってお湯は海水並みの塩分濃度の温泉に浸かり、いつもの宴会です。



【マツムシソウ】



【ナナカマド】



【トリカブト】



西穂高から奥穂高へ (アルプ)

- 日 程：8月28日(火)～30日(木)
- 参加者：L竹内 福田

● 行動記録：

- (28日) 西穂高口 14:30 発～西穂山荘(15:30 着)
- (29日) 西穂山荘 4:00 発～独標(5:00 着)5:05 発～西穂(6:22 着)6:30 発～ジャンダルム(11:50 着)12:30 発～奥穂(14:55 着)15:10 発～穂高山荘(14:50 着)
- (30日) 穂高山荘 5:00 発～白出小屋跡(8:39 着)8:44 発～新穂高ロープウェイ(10:00 着)

♣♣西穂高岳～奥穂高岳縦走

福田

小雨の降る中、憧れのジャンダルムへ

「無事生還出来てよかった～！」穂高山荘の赤い屋根が霧雨の中ボンヤリと見えた時、私の胸に浮かんできたのはこの一言です。

いつかは挑んでみたいと憧れていたジャンダルム。国内一般道最難関ルートと言われる西穂高岳から奥穂高岳への縦走を11時間かけ、なんとか達成してきました。

途中雨が降ってきたら退却と2人で決め、霧の立ち込める早朝4時ハーネスにヘルメットを装着し西穂の小屋をスタートしました。西穂の山頂までコースタイム通り順調に進みます。

赤岩岳へ続く道は直下15mのクサリ、サイドがスパッと切れ落ちた12mのトラバース。

間ノ岳に到着した時には雨。ガレ場の山で浮石を落とせば大事故につながります。お次は天狗ノ頭、有名な逆層のスラブ。20mと11mのクサリがかかっていますが、積み重なる岩が下に向かって切れ落ち雨でツルツル。天然のウォータースライダー。どこまで私をイジめる気？もしもここにドラえものの「どこでもドア」があったら今すぐ家に帰りたい！もう怖すぎる！

天狗のコルについた時にはしっかりと本降りの雨。エスケープルートとして岳沢へ下るにはもうここで決めるしかありません。行くか？下るか？胃はキリキリと痛み、口は渴き、緊張で

神経はパンパン。でも、脳からのアドレナリンが行け！行ける！と私を応援します。

リーダー竹内さんは「頑張ろうや」と常に弱気になる私を励ましてくれます。よし！前進だ！ナイフリッジはほぼ四つん這い。クサリのない岩峰は岩にへばりつくように三点支持を守りながらガシガシ攻めます。ホールドはしっかりとあるのでお天気なら楽しいだろうな～。私クライミング好きだもん。

コブ尾根ノ頭からついにジャンの姿が見えました。飛騨側に一度巻いてピークに登ります。

やった～！スタートから7時間50分。ついにジャンダルムピークに立ちました。天使の看板がお出迎え。ホッとすると空腹を感じます。少し長い休憩とコーヒータイム。

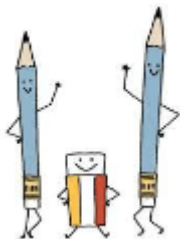
12:30次は奥穂に向かって出発です。ジャンダルム基部の狭いバンドのトラバース、ロバの耳、ナイフリッジの馬の背とクサリにつぐクサリ、崖につぐ崖、平和に登山できる道は無いのか？これが一般道？岩やクサリに全神経を集中させ進んでいきます。ザイルで確保をしてもらって安心して挑めました。実践で使えるクライミング技術とロープワーク。これ本当に大切です。

奥穂へ続く尾根までくると急に道が広く安定します。15時。奥穂高岳山頂。これほどまでに達成感のある縦走、今までにあっただろうか？最高です。一瞬ですが霧が晴れジャンダルムの全貌が姿を現しました。うわ～あんなところに立ったんだ。

翌日、穂高山荘での美味しい夕食とたっぷりの睡眠で元気回復。白出沢側に5時下山スタート。

約5時間で新穂高ロープウェイ駐車場へ、あとは帰路途中に温泉に入り帰りました。

雨のため、本当に神経を消耗する過酷な登山となってしまいましたが、そんな中、時には私を励まし、時にはザイルを出し、時にはおいしいコーヒーを入れ、無事縦走を成功に導いてくださったリーダー竹内さん、本当にありがとうございます。感謝です。



高森ボランティア活動報告

報告者：砂川(延)

- 日 程 : 9月15日(土)
- 場 所 : 高御位山長尾ルート上部
- 参 加 者 : 内海、高島、砂川(延)

お天気が怪しい中での作業となりました。前回(7月)に行った場所、長尾ルートの上部、岩盤が上がった頂上へのトラバースルートでの草刈りと、排水箇所の修復と補修作業を行いました。

9月の高御位例会で東コースを歩かれた須増氏から、一般の登山者の方が草刈りをしていたとの連絡がありましたが、草刈りの状況確認も兼ね行きました。

現地では登山道への草木のかぶさり状況は、そんなにひどくは無かったが登山道すその草刈りと既設の排水箇所の補修作業を行い、熱い中での作業でもあり10時30分頃終了しました。



■ 8. 11 (土) 第3回「山の日」のまとめ

報告: 上田

参加者: 上田 尾内 大谷 貝塚(文) 木下 黒本 笹木
澤田(律) 砂川(延) 高島 瀧原 田羅間 土屋
西川 廣岡 舛賀 待場 三木(悦) 村上 安田
矢根 山本(正一) 和田 (23名)

協力者: 高御位山宮氏子代表 長谷川氏

1. 参加者は上記のとおり23名 (女性が圧倒的に多かった)
2. トライヤルの買物は別表のとおりで費用は¥5111
買出しメンバー 上田 澤田(律) 三木(悦)
3. 買い物も早く終わり、早く集合した人もあり、第1陣は6時前に出発した
4. 飲み物の提供は7時頃より10時過ぎまで
5. 今年も高御位神社氏子代表長谷川氏に協力をして頂き、テーブル・ポリバケツを貸して頂いた
6. 200個のコップがなくなり終了した。長谷川さんのカウント数160名は納得のいく人数でした
7. 登山口などにポスター3ヶ所、4枚掲示した
8. 例年のとおり、最後に「高御位賛歌」を唄って終了した
(暑かったせいかわちょっと元気なかった)

トライヤル買出し一覧表

品名	金額
氷・コップ200個	2,345
水・緑茶・烏龍茶・ジュース・コーラ・カルピス・サイダー	2,766
合計(41リットル)	5,111